

日本アジア投資株式会社（TSE スタンダード 8518）2026 年 3 月期 期末決算説明会 議事録

開催日：2026 年 5 月 19 日（火）11:00-12:00

登壇者：代表取締役社長執行役員 CEO 丸山俊



# 日本アジア投資株式会社

## 2026年3月期 期末

### 決算補足資料

決算発表日：2026年5月15日

2026年3月期 期末 決算補足資料

© Japan Asia Investment Co., Ltd.

- 1 -

はい、皆様、日本アジア投資社長の丸山でございます。

本日は当社の決算説明会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

## 1. 当期実績

- ✓ 大型のプロジェクトの売却が実現せず、減収・赤字
- ✓ 上場株式の売却益を計上した一方で、未上場株式の売却は実現せず
- ✓ ファンドプラットフォーム事業の収益は安定的に拡大

## 2. 中計の進捗

- ✓ 投資開発事業(プロジェクト投資):  
M&Aの効果で目標を大きく超える実績を達成
- ✓ 投資運用事業(株式投資):  
大型ファンドの組成が実現せず見込から下振れ

## 3. トピックス

- ✓ 2025年11月～ 増資・新株予約権行使により資金を調達
- ✓ 2026年1月 KICホールディングスをM&Aにより取得\*
- \*その後2026年4月に追加取得して100%子会社化、傘下の子会社は、JAICアセットマネジメントに社名変更の後、パートナーが資本参加

## 4. 業績見込

- ✓ 127.2%増収、3億円の黒字を見込む
- ✓ 株式売却益の増加を見込む、期ずれした未上場株式や今後投資する上場株式の売却を見込む
- ✓ パートナーとの協業により、JAICアセットマネジメントのフィー収入増加を見込む

本日の説明内容でございますが、大きく4つございます。

まず1つ目は当期の実績でございます。

そしてその中で2つ目は中期経営計画の進捗状況につきまして、ご報告申し上げます。

3つ目につきましては、最近のトピックスをお話しさせていただきまして、最後に、2027年3月期新年度の業績見込みにつきまして、ご説明をさせていただきます。

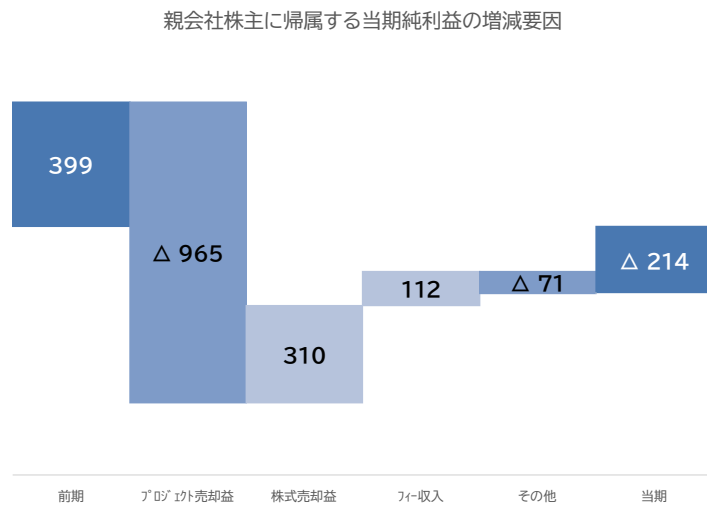
なお、当社の業績数値につきましては、これからお話しする内容の数字は従来連結基準と当社の真の実力と申しますか、当社の持ち分のみをしっかりと反映した数字に基づいて、お話をさせていただきたいと思っております。

それではよろしくお願い申し上げます。

## 2. 当期の実績－ハイライト P/L



(単位:百万円)	2025年3月期	2026年3月期	増減率
営業収益	2,150	↓ 1,320	△38.6%
営業原価	990	673	△31.9%
営業総利益	1,160	↓ 646	△44.3%
販管費	886	957	8.0%
営業利益	273	△310	-
経常利益	438	△378	-
親会社株主に帰属する当期純利益	399	↓ △214	-



✓ 減収・赤字要因:

- プロジェクトの売却: 利益を伴う大型の売却がなく、減収・赤字計上（前期は21件を売却）
- 株式の売却: 未上場株式の売却は延期となったが、上場株式の売却が寄与して売却益が増加
- フィー収入: ファンドの新設・増額や成功報酬の発生により増加
- 販管費: 外形標準課税の適用により税負担が1億円増加、役員報酬の削減等により増加額を8%に留める

2026年3月期 期末 決算補足資料

© Japan Asia Investment Co., Ltd.

- 3 -

まず一つ目のトピックでございますが、当期の実績、2026年3月期の業績でございます。

営業収益は約13億2000万円となりまして、前期と比較いたしますと、38.6%の減収、やや大きめの減収となっておりますが、その要因につきましては、大型のプロジェクトのExit、売却が予定しておりましたけれども、こちらがなかったということによるものでございます。

昨今の金利上昇、それから建築コスト等の上昇もございまして、また、足元で急激に進んでおります、インフレという環境の中でプロジェクト資産の売却を当社が希望する時期に希望する価格で良い条件で実現するに至らなかったということが、大きな減収の要因でございます。

さらに一部のプライベートエクイティ、未上場株式の例えばIPOですとか、まだ売却がこちら、想定通りに進まなかったということもございまして、大幅な減収となりました。

他方、当社が一昨年からは注力しております、上場企業を中心とした株式の運用ファンドの組成とそれからExit、売却といったところは非常に順調に進んでございまして、こちらが増加したことで一定の営業収益を確保しております。

また、ファンドの新設や増額も順調に進んでおりますため、こちらの運営報酬が増加し、売却によりまして、成功報酬の方も発生いたしております。

他方、販管費の方につきましてはですが、外形標準課税の適用によりまして、税負担が1億円程度増加

しております。しかし、その他のコスト削減を徹底いたしまして、全体では、増加額は小幅という形で留めております。

しかしながら全体を通じまして、プロジェクトの売却が想定どおり進まなかったこと、それから未上場株式の売却が想定どおり進まなかったこと、これらの要因によりまして、約2億1400万円の最終赤字というような数字になっております。

残念ながら、2026年3月期につきましては、赤字決算という形で、株主の皆様におかれましては、大変申し訳ないというように思っております。

この足元の状況をしっかりと反省し、今後の活路を見出すというような施策を打ちまして、2027年3月期の黒字化という形につなげてまいりたいと思っております。

2027年3月期の業績見込みににつきましては、最後4つ目のトピックとしてお話しさせていただきたいと思っております。

## 2. 当期の実績－ハイライト B/S



(単位:百万円)	2025年3月期末	2026年3月期末	増減率	主な増減要因(単位:億円)
総資産	10,693	10,704	0.1%	
うち 現預金	3,292	↓ 2,738	△16.8%	回収+18、投融資実行△15、増資+7、返済△8、費用△6、その他△1
うち 投資開発事業 (引当後 プロジェクト投資 (営業投資有価証券・貸付金))	4,088	3,912	△4.3%	投融資実行+7、 分配・売却・回収△9
うち 投資運用事業 (引当後 プライベートエクイティ投資 (営業投資有価証券))	2,856	2,899	1.5%	投資実行+8、含み益+3、 投資有価証券へ振替△2 分配・売却・回収△8
うち 固定資産	244	↑ 951	289.9%	のれん+6
借入金	3,495	↓ 2,710	△22.5%	返済△8
自己資本	6,907	↑ 7,463	8.0%	増資+7、利益△2

- ✓ 現預金 : 投資実行・借入金の返済により減少
- ✓ 投資資産: 投資実行と回収が均衡し、大きな変動なし
- ✓ 固定資産: M&Aでのれんが発生し増加
- ✓ 借入金 : 計画に基づき返済を実施
- ✓ 自己資本: 増資による増加が、損失による減少を補う

2026年3月期 期末 決算補足資料

© Japan Asia Investment Co., Ltd.

- 4 -

そして、当期の業績につきまして、次は、バランスシートにつきまして、お話しさせていただければと思います。

総資産につきましては、106億、107億といった形でございまして、当社の事業規模を表す資産につきましては、昨年度末とほぼ同水準で推移しております。

内訳をご覧くださいますと、まず現預金でございますが、足元 27 億 3800 万円という形でございます。

投資回収、それから投資実行がほぼ均衡しておりまして、回収したものをしっかりと次の投資に向けているという形になります。

他方、株主の皆様はご承知の通り、当社が現在まだ ADR 中ということで、借入の返済を優先せねばならぬ状況でございます。

借入の返済が 8 億円という形で発生しておりまして、現預金は 27 億円と前期末に比べると 5 億円弱の減少という形になっております。

他方、投資開発事業につきましては、40 億円が 39 億円と、こちらも回収した分をほぼ投資に向けておりますので、横ばいという形で維持しております。

投資運用事業につきましてもほぼ同水準という形でございます。

全体として総資産は増えておりませんが、こちら、当社が外部資金を活用して開発プロジェクト、それから投資ファンド運営を進めておりますことから、当社自身単体の資金は多額のもの投じず、銀行、それから投資家の外部のお金を活用して、ファンドの組成を行っておりますことから、従来ファンド連結基準と呼ばれるいわゆる単体に近い数字でございますが、こちらの資産は横ばいを維持しつつ事業全体の規模は大きくしていくというような方針で運用しております。

また借入れにつきましても前期末の 34 億 9500 万円から返済を進めたことによりまして、27 億円ちょっとという形に借入れの返済がしっかりと進んでおります。

この結果、ご覧いただきます通り、現預金のバランスと借入れのバランスがほぼほぼ均衡するようになってきております。

これ何を物語っているかと申し上げますと、ADR 中とはいえ、借入れの返済をすぐ足元の手元の現預金ですべてできる状態という形には当社のバランスシートは維持されているという状況でございます。

今後、しっかりと中長期の収益の基盤を築いた暁には、その判断を持ってその収益基盤が出来上がったからではなく、収益基盤ができたというようなしっかりとした自信と見込みが立った中で、返済を一挙に前倒しで進めてまいりたいという考えに引き続き変わりはございません。

いち早く現在のバランスシートを生かして、ADR 状態の完了終了といったものを目指していきたいと思っております。

また自己資本につきましては、後述いたしますけれども期中に第三者割当増資を実行しておりますの

で、増加しております。69 億円から 74 億円強といった形で自己資本はさらに厚みを増しているというような状況でございます。

## 2. 当期の実績－ハイライト C/F



(単位:百万円)	2025年3月期	2026年3月期
営業活動によるCF	1,427	↓ Δ129
投資活動によるCF	24	↓ Δ413
財務活動によるCF	179	↓ Δ71
CF増減額	1,650	Δ612
期末残高	3,047	2,435

- ✓ 営業活動によるCF:損失の計上や投資実行により支出超過
- ✓ 投資活動によるCF:M&Aの実施や関係会社への出資により支出超過
- ✓ 財務活動によるCF:長期借入金の返済が増資や新株予約権の行使による調達額を上回ったため支出超過

続きまして、キャッシュフローにつきまして、ご説明申し上げます。

こちらは駆け足でご説明申し上げますが、営業キャッシュフローにつきましては、一部損失の計上や投資実行により支出超過といった形になっています。

営業キャッシュフローはマイナスという形でございます。

また投資活動キャッシュフローにつきましても、今般大型の当社にとりましては、比較的大きなM&Aの実施や関係会社への出資を行いましたことにより、支出超過といった形になっています。

また財務活動によるキャッシュフローにつきましては、第三者割当増資により資金調達を行った一方で引き続き借入れの返済をしておりますことから、支出超過といった形になっています。

その結果期末のキャッシュ残高につきましては、先ほど申し上げました30億ちょっとから、期末のキャッシュ残高につきましては、24億円という形になっております。

当期につきましては、キャッシュフローにつきましては、このように最終赤字といったところを起点として営業キャッシュフローがマイナス、赤字になっておりますが、他方で投資活動につきまして

は、積極的な投資活動、それから M&A、関係会社による出資と前向きな支出を伴った形になっております。

全体的にキャッシュの残高も少し減っているような形になりますが、借入れも同時に大きく減っておりますので、バランスとしては財務と、それから現預金が非常にバランスした状態を維持できておるといように判断してございます。

以上が当期の業績の説明でございます。

### 3.中期経営計画の進捗状況 - 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応



**現状分析**

PBRが1倍を下回る状態が継続 → 要因は投資利益率の低さと資産回転率の低さ

決算年月	2019/3月	2020/3月	2021/3月	2022/3月	2023/3月	2024/3月
PBR(倍)	0.41	0.36	0.53	0.41	0.53	0.68
ROE(%)	8.7	4.9	0.5	0.3	赤字	赤字
PER(倍)	5.9	9.1	142.3	200.9	赤字	赤字
ROA(%)	2.00	1.20	0.13	0.09	赤字	赤字

**目指す姿**

PBRの改善に向けて → 資本コスト(約13.4%)並みのROEを実現

- ① 安定収益の拡大 (フィー収入で固定費をカバーし黒字化定着→資本コストの低減)
- ② 収益性の改善 (長期滞留資産を早期に回収し資産を入れ替え→資産の回転率の改善 & アセットアロケーション・事業ポートフォリオの見直し→収益性の改善)
- ③ リファイナンスの実現と財務レバレッジの改善
- ④ IR活動のアップデート

**重要な成果指標(KPI)**

	2027/3月期
投資開発事業 運用資産規模(AUM)増加額	150億円
投資運用事業 運用資産規模(AUM)増加額	300億円
カード・ブライダル事業 受託資産規模(AUA)残高	4000億円

**重要な目標指標(KGI)**

	24/3月期	27/3月期	目指す姿
安定収益	2億円	8億円	10.8億円
ROE	赤字	12.7%	資本コスト 13.4%以上
親会社株主に帰属する当期純利益	△16億円	10億円	黒字化の定着 一時収益の増加

この当期が中期経営計画2年目でございます。

その中期経営計画の進捗状況につきまして、ご説明させていただきたいと思っております。

まず中期経営計画につきましては、まず何よりも安定収益の拡大、外部資金を活用したファンドの管理運営報酬、手数料収入の増大、そして不採算事業からの投資回収と新規事業への投資を通じた全体的な収益性の改善、それらをもちましてリファイナンスを早期に実現しADRを返上して投資会社としてより適切なレバレッジの維持、投資会社として現在先ほど借入れと現預金が均衡していると申し上げましたが、果たして投資会社としては、そうした状況が適切かと申し上げますと、然るべき、レバレッジの水準があるものというように考えております。

今現在大きなレバレッジギアを踏み込めないのはやはり当社財務上、制約がありADRの状態にある

というのが、非常に大きな足枷になっているわけでございます。

そのためにも、リファイナンスを早期に実現しADRを完了し財務レバレッジをもっと引き上げるという意味におきまして、レバレッジの改善を図ってまいりたいと思っております。

また、そうした活動がしっかりと企業価値、株価に反映されるようにIR活動を、今後3年目以降もしっかりとやっていきたいと思っております。

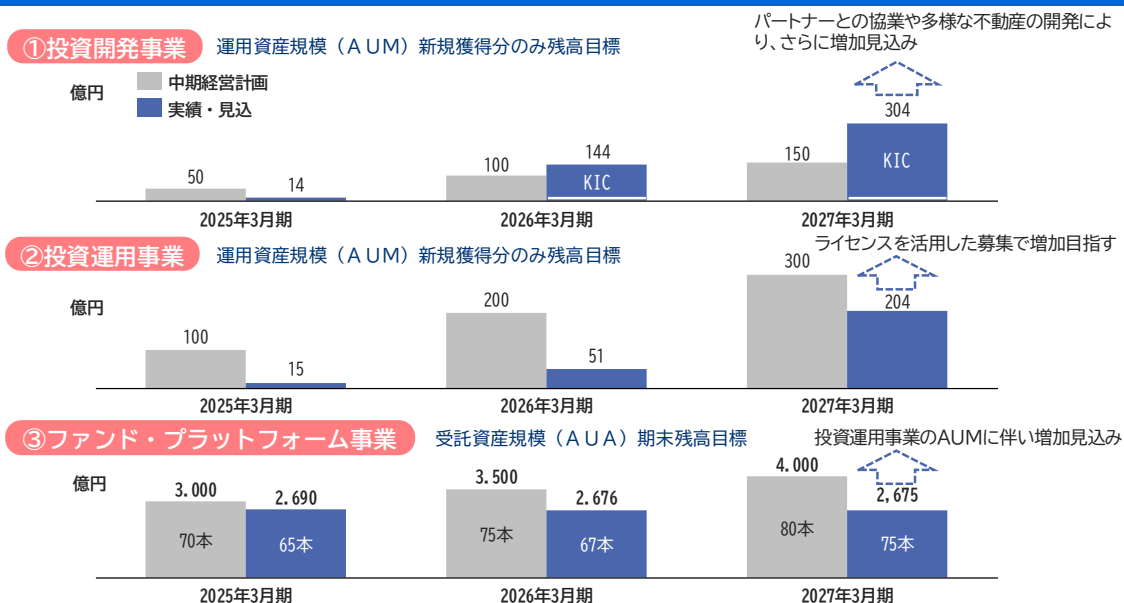
KPIにつきましては、投資開発事業、こちらは例えば物流倉庫やヘルスケア施設など、当社が新たに取り組んでおりますデータセンター事業などプロジェクト事業に関わる開発プロジェクトでございます。

そして、運用事業につきましてはエクイティ、例えば、上場企業や未公開企業の株式取得を伴う投資ファンドの運用という形になります。

こちらの受託残高、運用残高が当社のKPIでございます。

そのKPIにつきまして、次のページでご説明申し上げます。

### 3.中期経営計画の進捗状況－KPIの進捗状況



- ✓ 投資開発事業: M&Aの効果で大きく増加し目標達成、今後もパートナーとの協業などにより上振れの見込み
- ✓ 投資運用事業: 上場株式向けの大型ファンドが組成できず未達、今後はライセンスを活用して増加を目指す
- ✓ ファンド・プラットフォーム事業: 未達ながら採算性を向上、投資運用事業のAUMに伴い増加の可能性

まず、KPIの進捗状況でございますが、2026年3月期につきましては、後ほど、M&Aをした会社として、KICホールディングスという会社につきまして、ご説明申し上げますが、同社のM&Aによりまして、投資開発事業につきましては、100億円の目標を大きく上回る144億円という形でプロジェクト資産を積み上げることができました。

今後も買収した KIC ホールディングスを主体に 2027 年 3 月期におきましては、こちらも当初の中期経営計画を、大きく上回る規模の AUM、運用残高の積み上げを図ってまいります。

現在、詳細な数字につきましては、さらに精査中でございますが、おそらく 2027 年 3 月期におきましては、プロジェクト資産が 300 億円を超えてくるというように足元のプロジェクトの進捗から見込んでいるという状況でございます。

他方、上場企業とかそれから未公開企業の買収等、こうした株式運用ファンドの運用資産規模につきましては、2026 年 3 月末におきましては、中期経営計画で立てた 200 億円を大きく下回るような進捗になっております。

こちらの案件の中身につきましては、非常に高クオリティの差別化の効いた投資開発運用商品が投資家の皆様に提供できておるものと考えておりますが、金額に至りましては、大きく目標を下回っております。

他方、現在進捗中のパイプラインの規模を考えると、2027 年 3 月期に向けて、加速度的に、急スピードでこの積み上げを図っていけるものと考えております。

こちらにつきましては、中身と、それからしっかりと収益性の高い良質なパイプライン案件と合わせて規模を大きくしていけるような取り組みに向けて施策を打っておりますので、こちらの施策につきましても、後ほどご説明させていただきたいと思っております。

どうぞ、投資家の皆様には、2027 年 3 月期に向けて加速的な AUM の積み上げに向けて動いてまいりますので、ご安心いただければと思っております。

こうした開発プロジェクトや運用ファンド、これらの運用管理を受託する会社として JAIC 事務サービスという子会社がございますが、こちらのファンドプラットフォーム事業も KPI で捉えております。

2026 年 3 月期につきましては、75 本の社内外、外部向けにもこうしたサービスを提供しておりますが、ファンドの運営管理を受託し、運用受託規模におきましては、相当の規模を誇るファンドの裏方です。事務受託を請け負っているという形でございます。

こちらにつきましても中期経営計画の目標をほぼスコープに入れるような形で事業進捗しておりますので、こちらもご安心いただければと思います。

中期経営計画の進捗状況につきましては、プロジェクト事業につきましては、M&A を通じてしっかりと運用規模、運用資産規模の達成を捉えております。

特に KIC ホールディングスという M&A した会社が、大きな事業を後押しするような力を持って取り

組んでおりますので、開発事業につきましては、引き続きご期待いただければと思います。

そして投資運用事業、上場株式、未上場株式につきましては、中身だけではなく、しっかりと規模を追求できるような体制に取り組んでおりますので、こちらも2027年3月期に向けて目標を達成すべく役職員一同、意識してまいりたいと思います。

そして、それらを支えるプラットフォーム事業につきましては、安定的な受託運営管理ができておりますので、これをバネに当社の投資事業をしっかりと飛躍できるような組織体制を整えていきたいと思っております。

### 3. 中期経営計画の進捗状況 – AUM増加額の内訳



ファンド名称	設立日	ファンド総額 (期中増加額)	ファンド総額 (期末残高)	主な投資対象等
JAICパートナーズファンド	2024年6月		179百万円	当社と共同で事業シナジー創出に取り組む国内の上場及び未上場企業
JAICスペシャルティファンド	2025年1月	452百万円	612百万円 ※1	国内のお土産品業界、小売業界、観光業界において、事業成長と地方創生の好循環に取り組む上場企業等
JAICサプライチェーンファンド	2025年1月		830百万円	製造業におけるサプライチェーン関連の上場企業
JAIC-Web3ファンド	2025年2月	65百万円	465百万円	Web3(NFT等)関連の国内上場企業
JAICクリプトアセット株式ファンド	2025年7月	2,480百万円	2,480百万円	クリプトアセット(暗号資産)関連企業
JAIC-DLE アニメ IP ファンド	2025年7月 ※2	201百万円	201百万円	主に、日本国内のアニメ IP やアニメ IP を利用したコンテンツを投資対象としたファンド
JAICスケールアップファンド	2025年6月 ※3	301百万円	301百万円	事業規模拡大(スケールアップ)を目指す国内上場企業
合計 ※4		3,499百万円	5,068百万円	

※1:2026年4月に214百万円増額して、現在は826百万円

※2:出資履行は2025年10月

※3:出資履行は2026年3月

※4:2025年10月に設立したONE-JAPAN 観光ファンドは、出資未履行のため上記表に含めていない。

2026年3月期 期末 決算補足資料

© Japan Asia Investment Co., Ltd.

- 8 -

そして今、中身が非常に良いという形で自信を持ってお届けしているファンドの進捗状況につきまして、簡単にご説明させていただければと思います。

当社は昨年から多数のファンドの組成に取り組んでおります。

パートナーズファンド、こちらは当社が政策的に保有し事業シナジーを生む会社に対して投資をしているファンドになります。

それからスペシャルティファンド、日本アジア投資として、こちら最も注力しているファンドになります。

特に土産業界、観光業界、小売業界、こうした業界におきまして、事業成長と地方創生との好循環を生む上場企業等に対して積極的に投資を行っております。

それからサプライチェーンファンド、日本アジア投資という形で、トランプ関税とかコロナ禍でのサプライチェーンの問題等、非常に大きな問題が、この数年起こってございましたけれど、こうした業界におきまして、日本とアジアをつなぐ投資会社としてサプライチェーンに注力したファンド組成を進めております。こちらでも現在上場企業に対して持ち分を相応に保有しております、同社と協業を含めた取り組みを行っているところでございます。

そして Web3 ファンド、Web3 領域、それから仮想通貨、暗号資産、こうした領域におきまして、当社の投資会社を通じて取り組むことを目的に Web3 ファンドを通じてイオレという上場会社に積極的な投資を行っております。

また同様に、クリプトアセット株式ファンドにおきましても暗号資産関連企業のワラント、上場企業の株式といった形で保有しております。

またコンテンツにも力を入れておまして、アニメ IP ファンドといったものを投資先と共に取り組んでおります。

また今期の新たな取り組みといたしまして、こうした当社の様々な取り組みが市場内外での評価を受けまして、国内の上場企業から上場企業のバリューアップといった観点で東証の市場改革の波もございまして、上場廃止とも最近少し出てきているのかなという印象を持っておりますけれど、比較的時価総額の小さいスタンダード、グロース企業、こうした会社さんからご相談を受けることが非常に大きくなっております。

そうした会社様に対しまして、当社の財務、それから経営、資本、株主のソリューションを多岐にわたって提供することを目的にスケールアップファンド 1号という形で、スケールアップ 1号、2号、3号といった形で鋭意準備に取り組んでおります。

年末に向けて、おそらくそうした案件が非常に大きく増えてくるのかな、というように予想しておりますけれど、スケールアップと、対象先の事業規模、企業価値の拡大をスケールアップするといったことを目的としてこのファンドを連番でシリーズ化してまいりたいというように思っております。

このように非常に多岐にわたる領域におきまして、多様な財務、経営、資本、株主、さまざまな投資先のお困りごとに対応したファンドの組成というのが、進んでいるという状況でございます。

また、投資実績につきましては、次のページでご説明させていただきたいと思っております。

- ✓ 新設ファンドから上場企業8社に投資実行  
当社による業務提携を通じた事業支援、投資先企業同士の協業も拡大
- ✓ 当社自己資金からも2社への新株予約権投資  
資金効率の高い投資手法による収益機会の確保



この1年強ぐらいで上場企業を中心に8社に投資実行させていただきました投資実績につきまして、皆様ご覧いただいている通りでございます。

直近におきましては、プレスリリースも出させていただきましたが、九州、小倉にございます井筒屋さんという非常に歴史のある地方百貨店に投資をさせていただきました。

非常に地元で信頼と知名度が高く、地元の皆様から信頼を得ている歴史の古い百貨店でございます。

軒並み地方百貨店というと、非常に人口減少、高齢化等で苦境に陥っている会社が多い中、井筒さんは地元の顧客に対して百貨店の枠に留まらない新しいサービス、それから新しい商品、こういったものを届けるのに非常に腐心しておられる会社です。

また、外商顧客、外商が非常に強い会社でございまして、外商が近隣にまで行って顧客の困りごと、本当に高額品を販売するだけではなく、さまざまな顧客の困りごとにご相談に乗るコンシェルジュのような役割を担っているサービスを提供している会社になります。

私ども、地方の人口減少、少子高齢化という中でこうした外商モデルというのは、かつて定着した古いビジネスモデルではなく、新たにブラッシュアップしてまいりますと、地方のなかなか生活に不便な場所であり、人口が減少していく中で、ただ一方で非常に品質の高い良いサービス、商品を届けるといった目的からすると新たな輝きを生むのではないかなと思っております。

北九州市におきまして、こうした井筒屋さんの取り組みに 100%、120%の応援をしつつ、同社の企業価値向上をご支援してまいりたいと考えております。

このような形で、業務提携を結ばせていただき、ファンド、それから当社本体を通じてしっかりとしただご支援、協業をさせていただくという目的で投資をさせていただきました。

今、井筒屋さんの取り組みを詳細にお話申し上げましたが、こうした取り組みをこの 8 社全ての会社と行っているという形になります。

当社自体の事業でもつながりますし、投資先さんの事業規模拡大、事業の品質向上、そしてそれらを通じた企業価値向上につなげてまいるといった形で、通常の他社のファンド等とは一線を画した差別化したファンドの組成に取り組んでいるという形でございます。

また自己資金を一定少なくして効率の良い投資を行うということで、新株予約権投資といったものにも積極的に取り組んでございます。

投資先の概要につきましては、以上になります。

### 3.中期経営計画の進捗状況－投資先企業の成長支援



#### 当社との協業や投資先企業間での協業により企業価値を向上



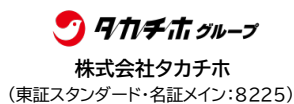
#### JAICスペシャルティファンドに出資

国内のお土産・小売・観光業界の上場企業に投資するファンドに出資、  
ファンドの投資先である(株)タカチホの新商品のプロモーションで協業



#### JAIC-DLE アニメ IP ファンドに出資

DLE社の日本国内のアニメ IP やアニメ IP を利用したコンテンツを  
投資対象とするファンドに出資



#### おみやげファンド 1 号に出資(2026年4月)

お土産品業界のロールアップに特化したファンドへ出資、ファンドの投資先企業とタカチホの協業により両者の企業価値向上を目指す



#### データセンタープロジェクトでの協業

当社関連会社のJAICデータダイナミクス(株)が運営する分散型AIデータセンターの事業設計・運用戦略で協業

また補足になりますが、こうした投資先との取り組みにつきましてもこのページで解説をさせていただいておりますので、ご覧いただければと思います。

お土産ファンド1号という形で募集していただいたタカチホさんからも開示が出ております。  
お土産業界のロールアップに特化したファンドという形で当社先ほどスペシャルティファンドという  
ファンドを通じてタカチホグループに投資をさせていただいております。

そのタカチホグループとお土産業界のまたロールアップをする M&A というファンドを新たに組成い  
たしました。

具体的な、投資先、投資案件につきましては、今現在少しまだ開示ができない状況でございますが、  
こちら1号ファンドを通じて既に投資先が決定いたしておりますので、またこちらも、開示できる段  
階になりましたら詳細に皆様にお知らせしたいというように思っております。

また1年を超える投資期間となってまいりましたが、イオレさんとは非常に密接な関係を築いており  
まして、実際にこれからデータセンタープロジェクトへの協業がいよいよスタートするというような  
状況でございます。

このように多岐にわたるプロジェクト、多岐にわたる投資案件について投資先の皆様とさまざまなプ  
ロジェクトが進行し、それらが巡り巡って企業価値の向上につながるものと考えております。

これらの成果が実を結ぶのをお待ちしております。

#### 4.トピックスー第三者割当増資について



#### 2025年10月決議時 資金調達予定額 総額37.4億円<sup>(※1)</sup>

普通株式		新株予約権(行使価額固定型)		新株予約権(行使価額修正条項付)	
調達額	252百万円	調達予定額	994百万円 <sup>(※2)</sup>	調達予定額	2,507百万円 <sup>(※3)</sup>
株価	252円	行使価額	252円	行使価額	当初行使価額252円 <sup>(※4)</sup>
株式数	1,000千株	株式数	4,000千株	株式数	10,000千株
—	—	行使期間	2025/11/11~ 2027/11/10	行使期間	2025/11/11~ 2027/5/11

※1、2 調達予定額は、行使価額固定型新株予約権の全てが行使されると仮定した数値です  
 ※1、3 調達予定額は、行使価額修正型新株予約権の全てが、当初行使価額で行使されると仮定した数値です  
 ※4 行使価額が修正されるため、調達予定額は変動します

#### 2026年3月末 資金調達実績 総額7.8億円

普通株式		新株予約権(行使価額固定型)		新株予約権(行使価額修正条項付)	
調達額	252百万円	調達額	0百万円	調達額	527.7百万円
株価	252円	行使価額	252円	行使価額	平均 193円
発行株式数	1,000千株	発行株式数	-株	発行株式数	2,720千株
—	—	行使期間	2025/11/11~ 2027/11/10	行使期間	2025/11/11~ 2027/5/11

2026年3月期 期末 決算補足資料

© Japan Asia Investment Co., Ltd.

- 11 -

それからここからは3つ目でございますが、最近のトピックスにつきましてご説明いたします。

期中に当社は2025年10月に発行決議を行いまして、第三者割当増資を行っております。

このファイナンスによりまして、約37.4億円の資金調達を行う予定でございます。

なお、2026年3月末までに7.8億円の調達をしております。

ワラント、新株予約権が主体の資金調達になっておりまして、なかなか株価見合いで、ワラントがあるということで、株価が低迷しやすく、それによってワラントの行使が進まないというような、足元少し悪循環に陥っているところがあるのかなと懸念しております。

当社といたしましては、このワラントの行使が前倒し、加速で進みますよう、このワラントの積極的な行使と、それから実際市場外での引き受けといったことを加速してまいるべく、新たな株主候補の探索ということで、その引き受けにつきまして、協議を前提にしてそうした株主の探索を今積極的に行っているところでございます。

望むらくは、できる限りこのワラントが早期に前倒しで行使され、着実な資金調達が進むようにしてまいりたいと思っております。

また、このワラントにつきまして、当社の基本的な考え方を補足させていただきますと、上場している意義、それから株主の皆様継続的に、その企業価値を株価でもって恩返しをしていく、応えていくために、投資会社といたしましては、一定期間おきに、この資金調達というのは、市場において積極的にやってまいりたいと思っております。

ただしその条件というのは、当社がしっかりと投資収益性を確保し、投資を実行できる案件をオリジネーションし、実行し、また外部資金も金融機関、外部の投資家を問わず調達できるような事業の再現性に取り組むことができるようになってからというように思っております。

それによって資本コストを上回る投資プロジェクト、投資案件で投資を実行し、それによってさらに超過収益を上げて投資家の皆様に還元し、株価、企業価値向上を遂げて、それによってまたさらに資金調達を行う、投資会社として市場からもしっかりと資金調達を行いながらその資本コストを上回る収益を上げ続ける、それを繰り返していくことが投資会社として上場している意義であり、投資家の皆様にしっかりと企業価値を通じて還元を行うことができるというように考えております。

一環として行いました期中の第三者割当増資でございますが、こちらに向けまして、しっかりと調達を確実に行ってまいりたいと思っております。

<本ファイナンスの目的・意義>

安定収益の拡大により黒字化を定着させるとともに、更なる企業価値向上に向けた取り組みを行います

◆ 連続的な成長に向けて → KPIの着実な達成とAUMの更なる拡大

中期経営計画・目標	重要な成果指標 (KPI)		重要な目標指標 (KGI)		
		2027/3月期		27/3月期	目指す姿
	投資開発事業 運用資産規模(AUM)増加額	150億円	安定収益	8億円	10.8億円
	投資運用事業 運用資産規模(AUM)増加額	300億円	ROE	12.7%	資本コスト 13.4%以上
	ファンド・プラットフォーム事業 受託資産規模(AUA)残高	4000億円	親会社株主に帰属 する当期純利益	10億円	黒字化の定着 一時収益の増加

更なる企業価値向上

◆ 非連続的な成長に向けて → 新たにM&A戦略への取り組みを実施

(M&A対象企業)

- 各種ライセンス保有企業
  - 事業パイプライン保有企業
- 新たな事業機会と収益機会の創出

なお、本調達で行いました資金につきましては、データセンター事業への投資、それから投資運用ファンドへの当社持ち分への出資、そしてさらに当社の事業基盤を大きく拡大し成長を外から取り込むためのM&A資金に充当する予定でございます。

そして本トピックの延長線でございますが、この第三者割当増資で調達した資金で一件、当社にとりましては大きなM&Aを実行させていただきました。

## KICホールディングスの子会社化

- ✓ 物流施設やデータセンターの開発会社、アセットマネジメント会社を子会社化
- ✓ 2026年3月末時点で60%を取得後、2026年4月に追加取得により100%子会社
- ✓ 傘下のアセットマネジメント会社にて不動産以外のファンドの取り扱いを開始

名称	KIC ホールディングス株式会社
所在地	東京都千代田区神田錦町三丁目19番
代表者	代表取締役社長 土田 匡人
事業内容	持株会社、不動産開発事業、プリンシパル投資事業
設立	2018年6月20日
株主構成	当社 100%(2026年4月末時点)
グループ会社	JAICアセットマネジメント株式会社(2026年4月社名変更) ✓ 保有ライセンス:金融商品取引業、第二種金融商品取引業、投資助言・代理業、投資運用業、不動産投資顧問業、宅地建物取引業 ✓ 不動産ファンドだけでなく、有価証券や金銭債権を投資対象とするファンドの取り扱いも開始予定

2026年3月期 期末 決算補足資料

© Japan Asia Investment Co., Ltd.

- 13 -

その概要につきましてトピックとしてご説明させていただきます。

社名につきましては、KIC ホールディングスという名前になります。

当社が数年前から物流施設との開発でパートナー企業として協業してきた会社になります。

主に物流倉庫、最近では冷凍冷蔵倉庫との開発に取り組んでいた会社になります。

当社がなぜ KIC ホールディングスの 100%子会社化を行ったかという理由でございますが、まず先ほどちらっと申し上げましたが、当社はもともとメガソーラーを中心にプロジェクト事業の開発を行っておりました。昨今ではヘルスケア、介護施設とか、障がい者向けのグループホーム事業、こういったものにも領域を広げつつプロジェクト事業を推進しております。

さはさりながら、金利上昇とか、インフレとか、建築コスト上昇とか、こうしたプロジェクト開発には向かい風が今吹き始めているという状況でもございます。

インフレに強く、こうしたポートフォリオの多様化を図っていく上で当社が見出したものがデータセンター事業、それから今後賃料等の上昇が期待されるレジデンス、そしてインバウンド、観光業界が日本では数少ない成長産業でございますが、ホテル事業、こういった領域に手を広げるべく、当社の中にはなかった不動産領域の開発、オリジネーション、建築の現場監督、現場管理、こうしたものができる会社というのを子会社にしたと、かねがね思っておったところでございます。

という中で具体的なデータセンタープロジェクトの開発に取り組み、そして、レジデンス、ホテル等の開発にも取り組める開発メンバーがしっかりと揃っている KIC ホールディングスの子会社化といっ

たところを決断させていただきました。

実際すでにこの KIC ホールディングスの方では冷凍冷蔵倉庫等のプロジェクトに加えまして、当社と千葉県におきまして、データセンターの開発プロジェクトを推進しているところでございます。

また外部のパートナーとも協業いたしまして、レジデンスやホテルアセットの積み上げといった具体的なプロジェクトの取り組みというものが常に今現在進んでおります。

中期経営計画のところでも申し上げましたが、これらのプロジェクトが進捗することによりまして、もともとの中期経営計画を大きく上回る運用資産の積み上げがこれによって可能になるというように判断いたしております。

## 4.トピックスー子会社へのパートナー企業の参画



### アセットマネジメント子会社にパートナーが参画

- ✓ 2026年5月、RSホールディングス株のグループ会社が、JAICアセットマネジメント株に40%資本参加
- ✓ RSグループの不動産開発の知見とJAICアセットマネジメントの不動産ファンド運営の知見を融合し事業拡大を目指す

#### パートナー企業概要

名称	RS Investment Management 株式会社
所在地	東京都港区六本木 6-3-1 六本木ヒルズクロスポイント 6 階
代表者	代表取締役 若林 要
事業内容	不動産に関するアレンジメント事業及び付随する関連業務
設立	2019 年 7 月 22 日
株主構成	RS ホールディングス株式会社 100%
RSグループ実績	グループ全体の運用資産総額(AUM)は約6,000億円

また実はこの KIC ホールディングスには子会社がございまして、今社名を変更いたしまして、JAICアセットマネジメント株式会社といったこちらも当社の完全子会社としてグループインいたしました。

当社の完全子会社としてグループインした冒頭に、このアセットマネジメントの子会社に早速パートナーに参画いただきました。

パートナーがRSホールディングスのグループ会社でありますRSインベストメント・マネジメント

株式会社様に JAIC アセットマネジメントに資本参画いただきました。当社が 60%、RS インベストメント・マネジメントが 40%という形です。

この JAIC アセットマネジメントは、二種免許、それから投資運用業、様々なファンドを募集し運用するために必要なライセンスを保有している会社になります。

不動産の私募ファンド、それから今後は株式、債券、有価証券のほか、ファンド、こうしたものを広く投資家から募集し運用することが今後可能になってまいります。

不動産領域では倉庫、それからレジデンス、ホテル、RS ホールディングスグループと協業をしながらアセットの積み上げを図ってまいります。

そして中期計画上、今、計画に対して遅れております投資運用事業のファンドの積み上げにつきましても、こうした二種、投資運用業を保有するアセットマネジメント会社を子会社にすることによって、これまでの一部の投資家様にしかご案内できなかった商品がより幅広い投資家に募集を行うことができるようになってまいります。

それによって中身はいいファンドなんだけれど規模は小さいというところを早く脱し、いいファンドでより大きな規模を持ったファンドの組成に向けた手を打ったというような形になるかなと考えております。

第三者割当増資で調達した資金によりまして、KIC ホールディングスという開発の推進力を得、それから JAIC アセットマネジメント、名称を変えて広く資金調達を行えるようになったアセットマネジメント会社を、当社のグループに加えたことによってより中期経営計画の達成を確実にし、それから、当社のよりさらなる成長に資する M&A であるというように考えております。

今後さらに、この調達した資金で当社の事業基盤を拡充し、外部の成長を取り込むための M&A にも取り組んでまいりたいと思っております。

どうぞ KIC ホールディングスと JAIC アセットマネジメントを、当社のグループとしてよろしくご願ひ申し上げます。

## 5. 業績予想－通期業績予想の詳細



(単位:百万円)	2026/3期 実績	2027/3期 通期見込	増減率
営業収益	1,320	3,000	127.2%
営業原価	673	1,080	60.3%
営業総利益	646	1,920	197.0%
販管費	957	1,570	64.0%
営業利益	△310	350	-
経常利益	△378	250	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	△214	300	-

- ✓ 127.2%増収、3億円の黒字を見込む
- ✓ 株式売却益の大幅増加を見込む、未上場株式では前期から売却活動を続けている国内銘柄の売却を見込む、上場株式では、現在保有している銘柄だけでなく今後投資する銘柄の売却も見込む
- ✓ JAICアセットマネジメントでフィー収入の大幅増加を見込む、パートナーとの協業によりAUMが増加見込み
- ✓ ファンドの運営報酬も、AUMと共に着実に増加する見込み
- ✓ プロジェクトの売却は、一定程度の増加に留まる見込み
- ✓ 販管費は、子会社の増加、人員増強の計画、のれんの償却負担発生により増加見込み

2026年3月期 期末 決算補足資料

© Japan Asia Investment Co., Ltd.

- 15 -

そして4つ目、最後のトピックになりますが、2027年3月期、すでに今期走っておりますが、今期の業績予想につきまして、ご説明申し上げます。

中期経営計画ではAUMを目標にしておりますが、2027年3月期の業績寄与はまだ少し少ないという状況ではございますが、営業収益につきましては、しっかりと30億円という形で2026年3月期の13億円からいたしますと、大幅なジャンプアップ、増収を予想いたしております。

販管費につきましては、9億5700万円から15億7000万円と非常に大きく増加するような形で見えますが、こちら、買収したKICホールディングス、それからJAICアセットマネジメント、金融二種運用業のライセンスを保有してその領域も物流倉庫だけではなくてレジ、ホテル、有価証券、株式、債券、新たな私募ファンドの組成といった形で進めてまいるとあわせて、人員の大幅な拡充を見込んでおります。

本体の販管費につきましては、これまで通り販管費はほぼ横ばいという形でしっかりと維持してまいります。買収した会社の販管費が合体するという形になりますので、こちらが大きな販管費が増加するような要因になっておりますが、それによって営業収益も大きく増加する見込みでございます。

最終的な営業利益につきましては、3億5000万円、経常利益につきましては支払い利息等の影響により2億5000万円、親会社に帰属する最終利益は3億円という形で確実に黒字を達成するという決意の下、また、増収増益を達成し、これが意味するところは中期経営計画の目標をしっかりと、達

成しおそらくこの目標が達成できた暁には当社の収益基盤が安定したというような判断ができる状態であるというように考えております。

それによって起こることは何かといいますと、今抱えている ADR 状態の借入金を全て返済し当社が正常な会社になるということかなと思っております。

それによりましてリファイナンスを行い、レバレッジを適切な水準に高め、持続的・再現可能な投資収益・利益を株主の皆様へ還元していくという体制の完成を考えております。

今期はこの計画を引っ提げて、役職員一同邁進してまいりますので、皆様にはどうぞ引き続きご支援を賜ればと思っております。

## 5. 業績予想－将来情報についてのご注意



- ✓ 業績予想につきましては、当社グループが展開するプライベートエクイティ投資はその事業特性上株式市場等の変動要因による影響が極めて大きく、加えて昨今の変動の激しい環境下においては合理的な業績予想が困難なため、当社は業績予想を行っておりません。
- ✓ しかしながら、投資家及び株主の皆さまの利便に資するべく、業績予想に代えて、ある一定の前提を元に策定した「従来連結基準による見込値」を、数値の確度は低いものの、参考情報として開示しております。
- ✓ なお、当該「従来連結基準による見込値」をはじめとする本資料に掲載されている全ての将来に関する記述は、当社が現時点において入手している情報及び一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の数値は様々な要因により記述されている内容とは大きく異なる可能性があります。



<https://www.jaic-vc.co.jp>

お問合せ先:経営管理グループ IR担当

[ir@jaic-vc.co.jp](mailto:ir@jaic-vc.co.jp)

事業が多岐にわたり投資プロジェクト、それから投資ファンドにつきましても、投資先のところまでお話すると非常に多様な投資先の企業価値を上げるために多様な事業活動が付随して発生してまいりますので、かなりいろんなことをやっているなど印象を持たれるのかなと思っています。

今後、それらについても一つ一つ丁寧に説明してまいりたいと思います。

また、同時に非常に多岐にわたる一方で、当社の基幹になるような、柱になるような事業とかファンドといったものも今後の課題だというように思っております。

それらを達成する非常に大きな早道というのは、当然 M&A ということになりますけれど、調達した資金を使ってそうした当社自身の事業になるような、そして柱、基盤になるようなものを取り込むという意味におきましても、M&A は一つの大きな課題であるというように認識しております。

こちらにつきましても今期鋭意に取り組んでまいりたいと思います。

中期経営計画におきましては、M&A といったことは一つも言及してこなかったわけですが、2027年3月期が終了する中で、次の中期経営計画といったところでステージアップしてまいる中で、M&A をまた一つの大きな柱にしていまいるといったことを、今現在考えております。

そうした案件のオリジネーションも進捗次第、当社の大きな業容・業態を変えることになりまので、しっかりと皆様にご報告、ご説明申し上げたいと思っております。

それではこちらで本日の説明会を終了いたします。

皆様本日はご多忙の中、ご参加いただきまして、誠にありがとうございました。

以上